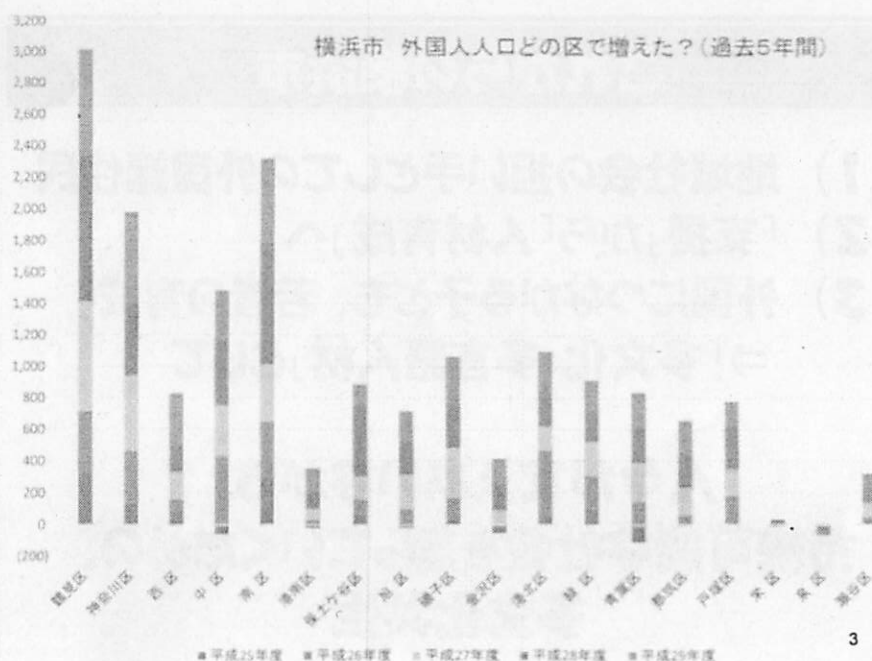


鶴見の多文化共生について



鶴見国際交流ラウンジ
2018年度版



本日のポイント

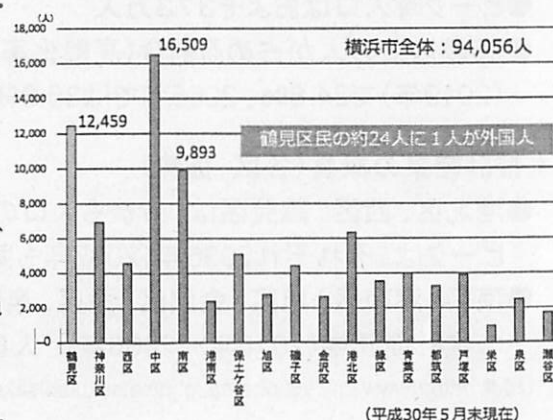
1. 鶴見区に住む外国の人について知る。
2. 鶴見国際交流ラウンジについて知る。
3. 多文化共生をめぐる課題について考える。

つるみのまちは、世界のまち！ ～つるみで世界を感じよう～

鶴見区は、京浜工業地帯の一角として、工場などで働く人々の住むまちとして発展してきました。このため、戦前には当時の日本の植民地政策のもと、朝鮮半島出身者が鶴見に住むようになり、その後韓国・朝鮮籍を持つ人々が多く暮らしています。

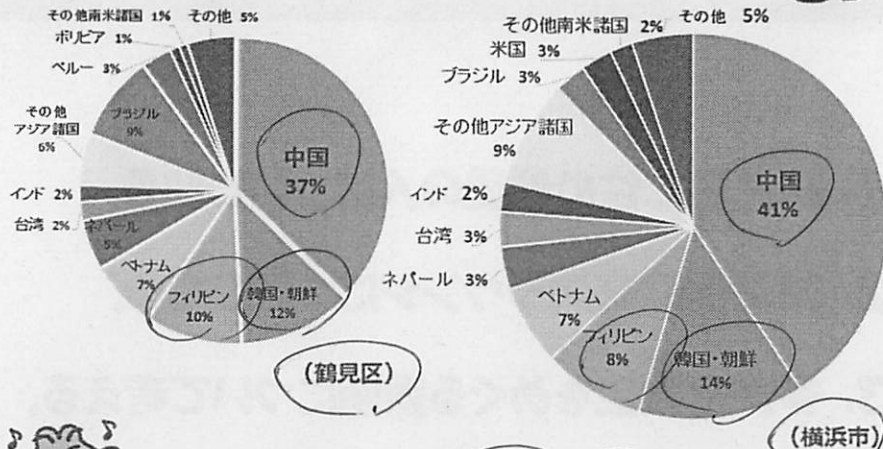
平成2年(1990年)、入国管理法の改正により、日本で職を得やすくなった日系外国人が全国的に多く来日するようになり、大正の頃から京浜工業地帯で働く沖縄出身者も多かった鶴見では、沖縄から南米に渡った2世・3世が多く住むようになりました。

鶴見区には、平成30年(2018年)5月末現在、12,459人の外国人が暮らし、市内で2番目に多い区となっています。鶴見区の人口に占める外国人の割合は4%を超え、この数字は、約24人に1人が外国人ということを示しています。



外国人人口の国別・地域別の割合

(平成30年6月末現在)



鶴見区は、横浜市と比べるとブラジルやペルーなど南米出身の人の割合が高いんだね！

ルーツ：逆さ

横浜市将来人口推計

* 推計結果の概要(市全体)

- 横浜市の人口のピークは2019年
- ピーク時人口はおよそ373万人
- 65歳以上の人占める割合(高齢化率)は人口ピーク時(2019年)で24.8%、2065年では35.6%

* 推計結果の概要(各区:抜粋)

- 港北区、西区、鶴見区は、今後も人口の増加が続き、人口のピークは、それぞれ2036年(2037年も同数)、2041年、2042年
- 南区、港南区、旭区、金沢区、栄区、泉区、瀬谷区では、今回の推計期間中(2015年～2065年)、人口の減少が続く

(出典: <http://www.city.yokohama.lg.jp/seisaku/seisaku/jinkosuikei/>)

横浜市外国人人口(鶴見区)

1. 中国 4,638人
2. 韓国・朝鮮 1,530人
3. フィリピン 1,324人
4. ブラジル 1,147人
5. ベトナム 878人
6. ネパール 664人

鶴見
から1位

これからの横浜市

- (1) 地域社会の担い手としての外国籍住民
- (2) 「支援」から「人材育成」へ
- (3) 外国につながる子ども、若者の育成
⇒「多文化・多言語人材」として

人々が支えあいながら、
持続可能な社会を創っていくための、
多文化共生



1980
 1150L
 沖縄 (明記) → 川崎
 → ブラジル
 → 1171
 鶴見
 1171



鶴見区多文化共生のまちづくり宣言

鶴見区多文化共生のまちづくり宣言

鶴見のまちは世界のまちです。

区民の30人にひとりには外国籍の方で、80か国を超える国の方々が鶴見で暮らし、働いています。

鶴見には、人々が支え合い、互いの文化を理解・尊重しながら、国籍を越えて交流・活動し、鶴見ならではの新たな文化を育ててきた歴史があります。これは鶴見の誇りです。

鶴見区は、このまちに住むすべての人々の人権を守り、暮らしやすいまちづくりをめざします。

未来の鶴見が世界に誇れる「多文化共生のまち」となるための取組を区民、事業者、団体のみなさまとともに進めることを宣言します。

平成20(2008)年6月 鶴見区長 植田 孝一

2. 多言語による情報提供

- ・多言語生活情報紙(7言語)「手をつなごう! つるみ」の発行(四半期ごと、年4回)
- ・ホームページによる情報提供、イベントの案内等



多言語生活情報紙
「手をつなごう! つるみ」



鶴見国際交流ラウンジ、ホームページ
<http://www.tsurumilounge.com/>

鶴見国際交流ラウンジ事業

1. 外国語による窓口相談

- ・相談件数: 3,443件(平成29年度)

- ・相談時間:

月曜~土曜 9:00~21:00

日曜・祝日 9:00~17:00

(曜日・時間帯により対応言語が異なります)

休館日 毎月第3水曜日および12月29日~1月3日



外国語による窓口相談

- ・対応言語(7言語)

日本語、英語、中国語、韓国・朝鮮語、ポルトガル語、スペイン語、タガログ語

- ・相談スタッフ:

16名(日本語ネイティブスタッフ73名、各言語ネイティブスタッフ13名)

3. 交流会の開催(年4回)



「モンゴルを体験しよう!」(鶴見区制90周年事業として実施)



「ダンス!ダンス!つるみ!!!」

4. 外国につながる子どもに対する学習支援の実施



学習支援教室<毎月第1・3土曜日、8月第3週目5日間、12月~2月第2・4土曜日(中3クラス)など>



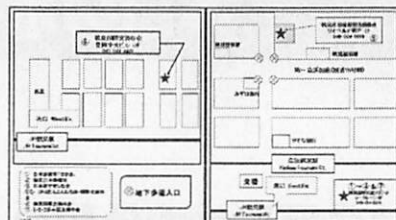
外国語による絵本の読み聞かせ会(母語・母文化継承支援事業)

家族コミュニティのための母国語と文化の継承

5. 日本語ボランティア団体による日本語教室の実施
(火曜日(午前・夜間)、木曜日(午前)、金曜日(夜間) など)



ボランティア団体による日本語教室



鶴見区で活動しているボランティア団体

6. 外国人親子の子育て支援「カンガルーサロン」の実施(毎月2回)



子育てに関わるテーマ(病気、予防接種、保育園、幼稚園、お弁当づくり、防災 など)に沿って、日本での子育てに必要な情報と日本語を勉強します。

鶴見区に住む外国人の特色

- (1) 平成2年の改正入管法施行による、南米日系人
(ブラジル、ペルー、ボリビアなど)の来日の促進
- (2) 鶴見に全国から働く人が集まった際、沖縄から鶴見に
多くの人が移住(明治後期:鶴見河口埋め立て、大正
初期:大規模工場の建設・工場での労働、高度経済成
長期に集団就職で若年層が加わる)
→沖縄にルーツを持つ南米日系人が鶴見へ
- (3) 横浜市内の外国につながる児童・生徒

課題と展望

「多文化共生」にも問題があるとしたらそれは何だろう?

*「みんなちがって、みんないい」で問題は解決するか?

- ⇒ オレはオレ、ヤツはヤツ。
- ⇒ 否定はしないけど、関わりもしない。

*ここに、どのようなつながりを作っていけるか?

- ⇒ ゆるやかな社会統合

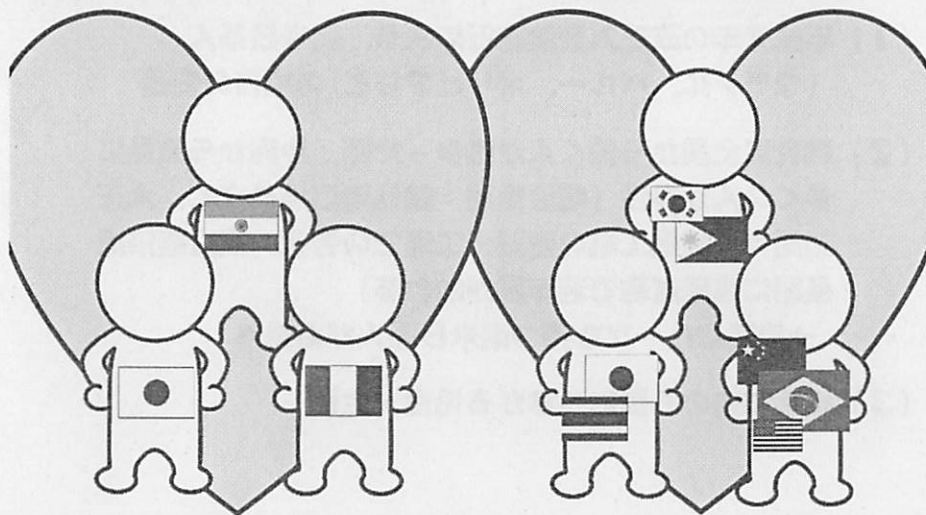
課題と展望

多言語・多文化 ⇔ 複言語・複文化

- ⇒ 一人の中に、複数の言語と文化。
「異文化」は、私の中にある。
- ⇒ 複数の言語と文化をもとに他者と関わる
- ⇒ 異質な他者に対する想像力、感受性
- ⇒ その人本来の個性によって評価される社会

さいごに

Multiculture(多文化) ≠ Pluriculture(複文化)



質疑応答



本日のポイント

1. 鶴見区に住む外国の人について知る。
2. 鶴見国際交流ラウンジについて知る。
3. 多文化共生をめぐる課題について考える。

ありがとうございました！

